

▷ 東日本大震災への取り組み

東日本大震災の発生以降当社では、保険金等の適切かつ確実なお支払という生命保険会社の基本的使命を全うするため、被災されたお客さまに対するお見舞いと請求のご案内を目的とした「お客さま請求ご案内活動」に全社を挙げて取り組みました。

またこれまで、被災地のみなさまの救援や被災地の復興にお役立ただくための義援金を寄贈させていただくとともに、東京・大阪本社役職員により被災地のみなさまに対して防寒着を提供させていただいたほか、社会貢献団体への寄付を行いました。

▷ 社会貢献活動への取り組み

全国障害者スポーツ大会への特別協賛

平成24年10月に岐阜県で開催された「第12回全国障害者スポーツ大会(ぎふ清流大会)」に特別協賛を行いました。この大会は、「障がいのある選手が、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与すること」を目的として開催される国内最大の障がい者スポーツの祭典です。

岐阜大会は、「輝け はばたけ だれもが主役」をスローガンとして、また東日本大震災の復興を支援する大会として、「心をひとつに 日本再生」を合言葉に、被災地や全国に向けて、勇気や希望、そして元気を送る大会となりました。

また、大会に参加する選手等との交流の場である「ふれあい広場」に「大同生命ブース」を毎年設置し、多くの役職員がボランティアとして活動しています。

平成25年度も、東京都で開催される「第13回全国障害者スポーツ大会(スポーツ祭東京2013)」に特別協賛を行うとともに、多くの役職員がボランティアとして参加する予定です。



岐阜大会の開会式

役職員による社会貢献活動

平成4年に役職員による自主的な企業市民活動組織として「大同生命社会貢献の会」が設立され、募金活動やボランティア活動への参加・支援などに取組んでいます。役職員から寄せられた募金やチャリティーカレンダー展などによる収益金は、障がい者施設や社会貢献活動支援団体への寄付金として活用しています。

また、ボランティア休暇制度を利用して日ごろ外出機会の少ない身体障がい者の方々の外出を支援する「身体障がい者一日外出支援ボランティア活動」を平成6年から実施しています。会話や食事、車椅子・歩行介護など、障がい者の方々と直接ふれあうことを通じて障がいに対する理解を深めています。



身体障がい者一日外出支援ボランティア活動

寄付による大学でのオープン講座

寄付による大学でのオープン講座は、創業100周年を迎えた平成14年度から実施しています。各大学のご協力のもと、中小企業経営者のみなさまに、経営・ビジネスに関する知識・スキルの習得の場を提供しています。講義は、大学ごとに中小企業経営に資するテーマを設け、TKC全国会からも講師を派遣いただき、実施しています。

平成24年度は6大学で実施、受講者数は過去11年間のべ約9,100名にのぼり、受講者のみなさまから大変ご好評をいただいています。



大学でのオープン講座

ビッグハート・ネットワークによる寄付活動

当社は、社会貢献活動の一環として、平成17年より法人会・納税協会会員のみなさまから企業経営者をご紹介いただき、「経営者大型総合保障制度」にご加入いただいた際に、その収益の一部を寄付する「ビッグハート・ネットワーク」を行っています。

平成24年度は、東日本大震災により被害を受けられた岩手・宮城・福島各県の7自治体への寄付および日本赤十字社を通じた東日本大震災復興支援義援金の寄贈を行いました。

▷ 地球環境保護への取り組み

「T&D保険グループ環境方針」の制定

平成18年4月、T&D保険グループは環境問題への取り組み姿勢を明確に示すため、「T&D保険グループ環境方針」を制定し、役職員への周知徹底を図るとともに、環境負荷軽減のためのさまざまな活動を推進しています。

また、「グリーン購入基準」を制定し、環境に配慮した商品の優先的な購入を進めるとともに、事務用紙使用量の削減にも努めています。

T&D保険グループ環境方針

1. 事業を通じた地球環境保護
2. 環境負荷の軽減
3. 環境関連法規の遵守
4. 環境啓発活動の推進
5. 環境への取り組みの継続的改善

クールビズ・ウォームビズの実施

当社では、毎年6月から9月末までの間、本社部門で室温を一定温度に設定する「クールビズ」を実施しており、平成21年8月からは実施範囲を支社営業組織等も含めた全社に拡大しました。あわせて、毎年11月から3月末までの間、全社的に室温を一定温度に設定する「ウォームビズ」を実施し、地球温暖化防止に努めています。

なお、平成23年度より、環境問題への取り組み強化および節電策の一環として、クールビズの実施期間を5月から10月末まで拡大して実施しています。

▷ 財団の活動状況

公益財団法人 大同生命国際文化基金 (<http://www.daido-life-fd.or.jp/>)

諸外国との文化交流の実施や助成を通じて、国際相互理解の促進を図り、わが国の国際化に貢献することを目的として、昭和60年に設立されました。

大同生命地域研究賞の贈呈

地球的規模における地域の総合的研究を支援するため、地域研究の分野の発展に貢献された研究者に対し地域研究賞・同奨励賞を、また、国際相互理解を高めるうえで功労のあった方に対し地域研究特別賞を、昭和61年以来毎年贈呈しています。



地域研究賞贈呈式

翻訳・出版事業

■「アジアの現代文芸」シリーズ

アジアの現代作品の翻訳出版を通じて現代アジアとの相互理解を深め、アジアの国々との親善関係を促進することを目的としています。これまでに、12カ国、60点の作品を翻訳・出版し、全国の大学、国公立図書館等に寄贈しています。

作品がより多くの方々の目に触れ、アジア諸国の社会・歴史等への理解が一層深まるよう、平成24年度より新刊・既刊を順次電子書籍化のうえ同財団のホームページで公開しています。



「アジアの現代文芸」シリーズ

■「ジャパニーズ・ミラズ」シリーズ

日本図書のアジア各国語への翻訳・出版を通じて、アジア諸国の方々に「日本」への理解をより一層深めていただくことを目的としています。作品31点を8カ国の大学や図書館等に寄贈しています。



「ジャパニーズ・ミラズ」シリーズ

教育支援事業

東南アジア諸国の勉学環境に恵まれない子ども達のために、学校の建設や、図書・学用品の寄贈を通じて教育環境を整備し、国際相互理解の促進に貢献することを目的としています。うち、学校建設事業については、平成24年度末までに東南アジア5カ国で計18校が竣工しています。なお、同事業をはじめ、多年にわたる教育分野への貢献が認められ、ラオス人民民主共和国から「労働勲章第三等」が授与されました。



竣工した小学校



公益財団法人 大同生命厚生事業団

(<http://www.daido-life-welfare.or.jp/>)

人間優先の理念に基づき、生活環境の悪化による健康被害や高齢者人口の急増による諸問題に関する研究を助成することにより、国民の健康と社会福祉の増進に寄与することを目的として、昭和49年に設立されました。

地域保健福祉研究助成・ボランティア活動助成

■ 地域保健福祉研究助成

地域に密着した公衆衛生活動や福祉活動に従事している方々の、「地域における保健・医療・福祉に関する研究」に対して助成しています。

■ サラリーマン(ウーマン)ボランティア活動助成

日ごろは会社などに勤務しながら、休日などを利用して「高齢者・障がい者の福祉やこどもの健全な心を育てる交流のボランティア活動」を行っている方々の活動に対して助成しています。

■ シニアボランティア活動助成

「高齢者・障がい者の福祉やこどもの健全な心を育てる交流のボランティア活動」を行っている年齢60歳以上の方々の活動に対して助成しています。



助成金贈呈式

平成24年度末における助成金の累計は、件数で3,268件、金額で15億1,943万円となりました。

家庭看護の相談と実習教室

お年寄りや病人の家庭看護について学び、実習する教室を日本赤十字社大阪府支部との共催で昭和55年から開催しており、受講者数はこれまでにのべ約4,800名になりました。また、平成24年度開催の「家庭看護の相談と実習教室」を撮影したDVDの貸出し(無償)を行っています。



家庭看護の相談と実習教室

健康小冊子の発行

人々の関心が高い環境や健康、福祉の問題について、専門家が執筆した簡潔で読みやすい小冊子「環境と健康シリーズ」を発行しています。昭和50年からこれまでに68冊を発行しています。

より多くの方々にご活用いただくため、平成24年度より特に需要の高い小冊子を電子化し、同財団のホームページで公開しています。



近刊の3冊子